

## 歯科医療の未来：再生医療がもたらす革新的パラダイムシフト

中原 貴（日本歯科大学生命歯学部 発生・再生医科学講座）

長らく歯科医療は、レジンや金属などの材料主体の治療が行われてきた。2000年以降、治療抜歯された智歯や乳歯から次々と“幹細胞”の存在が明らかとなり、従来の歯科治療では治せなかった疾患に対する再生医療の可能性が拓かれた。

私たちの研究チームは、安全性と有効性をともなう再生医療の実現にむけて、歯髓由来の幹細胞を用いた再生医療技術の研究開発を進めている。これと並行して、将来の再生医療に活用する自家細胞の供給システムの必要性を考慮し、患者自身の歯髓幹細胞を培養・凍結保存する「歯の細胞バンク」にも取り組んでいる。

本講演は、社会に多大なインパクトを与える再生医療による未来の歯科治療を提起し、長らく続いた材料主体の歯科医療の歴史において、革新的なパラダイムシフトの渦中に私たちが立ち合っていることを実感する好機にしたい。